

聖霊降臨節第4主日礼拝 説教「花や鳥のように」要約

マタイによる福音書 第6章25～34節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所

2024年6月9日

① マタイによる福音書第6章

6章は、私たちが神様から遠ざけるものが三つ記されています。【1～18節】は人に「見てもらおうと」する事です。他人の評価や名誉欲にとられる事が私たちが神様から遠ざけるとされます。

【19～24節】は「地上に富を摘む」事です。富や金銭欲もこれに含まれます。そして【25～34節】では「何を食べようか何を着ようかと思ひ悩む」事があげられます。生活や将来への不安や、所有欲にとられてはいけないという教えです。私たちは普段、この事が私たちが神様から遠ざけるものだとあまり考えていないのではないのでしょうか。イエス様はまず、「命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか」(25節)と問いかけられます。これは「何を大切にするのか」という問いです。食べ物や衣服も生きるために必要なものですが、何のために食べ、何のために着るのかと考えれば、自分の命や体を守るため、維持するためのものなのでしょう。従って、一番大切にしなければならないものは、命であり体です。そしてそれらは基本的に神様から与えられているものです。

② 神様から与えられている

神様から与えられているということの意味を、イエス様は二つ示しておられます。【1】「だれが…寿命をわずかでも延ばすことができようか」(27節)、与えられたものである以上、神様が決められているものだという事でしょう。その一方で【2】「これらのものが皆あなたがたに必要なことをご存知である」(32節)とも言われています。神様は私たちがこの世界で生きていくために必要なものを分かっておられ、実はそのすべてを豊かに備えて下さっています。それは空の鳥や野の花を見れば分かると教えられているのです(26～30節)。この二点を踏まえて「だから『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな」と教えられます(31節)。私たちのために与えられている事の豊かさに目を注ぐ時、必要以上の生活や将来への不安や思い悩みから解放してくれるのです。しかも、イエス様は「まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(33節)とまで約束しておられます。この約束を心から信じて生きたい!

③ 花や鳥のように

今日の礼拝を「子どもの日」そして「花の日」の礼拝としている教会があります。いつもお世話になっている近くの病院や警察署などに、お花を届けに行く教会もあります。今朝の聖書箇所は、「花の日」にぴったり!! 昔から沢山の人たちを励まし、勇気を与えてきた有名な言葉です。イエス様は「思い煩うな」と言われました。「何を食べようか、何を着ようか」という事を考えすぎて悩む事はありません、と言われました。神様は、私たちに必要なものは与えて下さっているからです。その事は、空の鳥や野の花を見たらよくわかるよ、とイエス様は言われます。空の鳥は、種を蒔いたり、できたものを刈り入れたりしません。食べ物を何かに入れてとっておいたりもしません。でも、神様は鳥に必要な食べ物を与えて下さっています。野の花は、道端に誰かが種を蒔いたわけでもないのに、花が咲いている事があります。野の花も空の鳥も、そして私たちも、神様が造って下さった事は、同じです。ですから神様は、私たち一人ひとりにも「ここで生きてごらん」とちゃんと居場所を用意して下さいます。花や鳥のように、私たちが生きる為に必要なものを与えて下さいます。大丈夫!! 神様にゆだねて、感謝して!! 神様に喜んでもらえる事が出来たら、素敵ですね!!